

令和7年度 看護業務改善のためのICT導入アドバイザー派遣業務

看護DXに向けて

医療法人真正会
霞ヶ関南病院

施設概要

設立理念

老人にも明日がある



所在地	埼玉県川越市安比奈新田283-1
病床数	199床
主に算定している入院基本料と加算	回復期リハビリテーション病棟(123床)障害者施設等一般(37床)医療療養病棟(39床) 医療安全1、感染管理2、認知症ケア加算1、排尿自立支援など
看護提供方式	プライマリーナーシング 一部機能別看護提供方式
看護記録方式	FOCUS
使用している看護器材	パラマウントベッド離床CATCH 膀胱用画像診断装置リリアム
電子カルテ	ワイズマン:電子カルテシステムER
当院の特徴	地域での療養までフォローアップするため、訪問系・通所系の介護事業所を擁している。リハビリテーションを原動力に患者さん・利用者さんのより良い生活を目指す。多職種が各病棟に配置されている。

本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

- 急速に進む高齢化により、看護需要はさらに高まり、看護職員の業務は複雑さを増し、多忙を極めている
- 人口減少により看護人材は不足し、看護業務の効率化・省力化による看護職員の負担軽減は喫緊の課題である。
- 当院でも看護業務における課題を可視化し、ICTなどのテクノロジーを効果的に活用することで看護職員の業務負担軽減及び働きやすい職場環境の整備が求められる

目的

- 看護業務の効率化・省力化による看護職員の負担軽減とケアや記録物の充実
- 全世代のスタッフが仕事にコントロール感を持ち、自己実現できる
(子育て・妊活・介護・押し活・・・)

取り組み予定期間と主な内容

期間		主な取り組み内容
令和7年	7～9月	<ul style="list-style-type: none">対象病棟・病棟担当者の決定
	10～12月	<ul style="list-style-type: none">ヒアリングによる課題の可視化改善のための器機提案を受けるベンダーからの説明・デモ運用開始
令和8年		<ul style="list-style-type: none">機器の選定および決定成果発表会
令和9年		<ul style="list-style-type: none">電子カルテ更新または入替再度機器の選定継続使用と成果測定
令和10年度以降		<ul style="list-style-type: none">継続使用と成果測定

課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

- 他職種での情報共有をスムーズに行う
- 書類作成を簡便に変更する

目標

1. 情報共有のためのツールを見直し、活用により時間削減ができる
2. 書類作成の所要時間を削減し、適切な看護記録などの時間を創出できる
3. 上記課題解決に適切なICTがあるのか、それ以外の方法も検討する

取り組み内容(業務改善を行う業務)

1および2は既に検討中であり、3~5については必要性や予算状況を踏まえ、今後適宜検討を進めていく

#	業務改善する内容	用いるICT機器等	従来の所要時間 (時間/年)	想定削減余地	
				想定削減 可能時間(時間/年)	業務全体に占める 割合(%)
1	看護記録(看護サマリー・看護計画)	生成AI	42時間/年	35時間/年	0.6%
2	勤務交代時の申し送り時間の短縮 (必要な事項のみに限定し10分以内)	-	1,064時間	760時間/年	13.8%
3	コミュニケーションの効率化*1	インカム	-	-	-
4	勤務表作成	勤務表作成ツール	450時間/年	150時間/年	3.0%
5	バイタルサイン測定	バイタル自動連携ツール	71時間/年	71時間/年	1.4%

*1: 看護部ご報告会でコミュニケーション向上ツールとして候補入りした段階であり、削減工数の測定がまだ行われていないため、現時点では削減時間を記載していない。今後の検討に合わせて効果測定を実施する

ICTのご紹介 (ALYアシスタント)

カルテから数クリックで文書作成。医療現場の記録業務をAIがサポート

製品の概要

- ALYアシスタントとは、カルテ入力から分祖作成・検索まで 医療現場を支えるAIアシスタントサービス
- 前提条件として電子カルテの導入
- 電子カルテのデータを活用し、以下の文書を自動で下書き生成
 - ➔痰飲・看護サマリーの作成支援
 - ➔訪問看護指示書の作成
 - ➔リハビリサマリーの作成
 - ➔居宅医療管理指導書の作成
 - ➔診療状況提供書の作成
 - ➔訪問看護報告の作成
 - ➔主治医意見書の作成
 - ➔既往歴の作成
- OCR機能により、外部から受け取った神谷PDFファイルを簡単にカルテに取りこむことが可能。
- 診察やカンファレンスなどの音声を要約して出力可能

課題と期待される効果

課題

- 医師をはじめとする医療従事者の業務効率化、負担軽減が求められている
- 文章の作成や要約は業務不可が高い
- 看護サマリの記載内容に個人差がある
- 神谷FAXの情報をカルテに転記する手間が生じている

期待される効果

- ✓ 事務作業の業務効率化
文章作成や要約と言った業務不可の高い作業を生成AIにより効率的に行うことができる
紙やFAXを読み込む工程を削減可能
- ✓ 記録の標準化と質の向上

ICT導入により見込まれる効果

#	製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
		定性or定量	測定したい効果			
1	ALYアシスタント	定量	看護サマリーに要する時間の削減	看護サマリーの作成時間を測定し、平均値を算出する	3分以上削減	導入1か月前・導入3か月後
			業務効率化による残業時間の削減	月ごとの残業時間を比較する	月80時間以上の削減	導入1か月前・導入3か月後
			業務効率化による人件費減(残業時間)	残業時間の計測。削減された残業時間×時給で金額を換算する	42万円人件費削減	導入前年度・導入1年後
		定性	患者ケアへの時間増加による患者満足度の向上	患者、看護師、それぞれ数名ずつランダムに選定し、対応への満足感やストレス度合いについて聞き取り実施	患者、看護師それぞれ半数以上の(50%以上)が導入後の運用に満足している	導入1か月前・導入3か月後

本事業全体を通して得られた効果・影響

1. ICT導入で改善されるものと、ICT導入せずに改善できる業務が明らかになった
2. 業務内容の時間が可視化されて、課題の表出ができた
3. ICT機器の種類や活用方法を理解でき、導入を検討することができた

当院での取り組みポイント



- 看護部だけではなく、リハビリテーション部や医師など多職種で業務改善に取り組むことが出来る
- 入退院での書類作成に時間がかかっている
- 多職種で活用できる生成AIの導入

定例会議の継続

- 継続して、効率化できる業務の検討、必要に応じてICT機器の導入
- 本計画で発足したチームにより効率化できる業務内容やICT機器の導入を検討

多職種での課題抽出

- 看護職だけでなく、多職種で課題・改善策の議論

DX推進に向けた電子カルテの導入

- 新たな電子カルテの導入や業務改善への変貌

ご清聴ありがとうございました